はじめに

記念誌編集委員会座長　成田　滋

八王子囲碁連盟(八碁連)は今年で創立30年を迎え、記念誌を発行することが総会で決まりました。早速、理事を中心に編集委員会が構成されました。「記念誌はかくあるべき」という枠にあまりとらわれず、編集委員からいろいろなアイディアが出され、30年の節目にふさわしい編集方針を話し合ってきました。

30年という年月の経過で起こった様々な出来事はいわば歴史であり、その事実は資料の中でわかります。出来事は年表にまとめてあります。しかし、それだけで能事たれりとするのでは、囲碁の精神や伝統、それを継承しようとしてきた人々の努力や人間性は伝わりにくいものです。そのような視点から、回顧的でかつ分析的、展望的な内容も織り込むという方針で編集を心掛けてきました。その特徴のいくつかを列記してみます。

１　未来を志向する構成

通常、「◎年史」というと、過去の出来事や記録が中心になりがちですが、本誌は過去を回顧しながら、将来像やビジョンを強調しています。会員の活性化はもとより、伝統文化である囲碁の啓発のために求道者や初心者にも読みやすい内容としています。

２　会員や求道者が主役

会員や求道者を中心とした座談会も企画し、囲碁の話題が身近なものであるように心掛けました。先進的な取り組みをする同好会の特徴や活動も紹介し、特に求道者や初心者への支援を見据えた今後の活動を展望しています。

３　活動に焦点

放課後子ども囲碁教室、子ども囲碁大会、初心者研修活動、級位認定大会、多摩地区対抗囲碁団体戦、市民囲碁大会など多彩な活動を紹介しました。このような活動エピソード、受賞エピソードなども網羅しました。八王子囲碁界の至宝といわれた三浦浩八段の語録も取り上げています。

４　視覚に訴え

文字ばかりの記念誌ではなく、挿図や写真、グラフを使って楽しみながら読むことができるように配慮しています。

５　広告を掲載

スポンサーを得ることにより、八碁連への関心を高めてもらうと同時に、各界の方々へ囲碁の普及に努めます。

読者の皆様から忌憚のないご意見やご批判を頂き、この記念誌を今後の八碁連の発展に活かしていきたいと考えます。